



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 23

2023.12.13 (No.3183)

ロータリーの心で
友情を深めよう

第2560地区ガバナー／米山 忠 俊
会 長／吉井 直 樹
会長エレクト／渡 辺 良 一 (クラブ奉仕A)
副 会 長／歸 山 肇
幹 事／小 林 吾 郎
S A A／野 水 靖 之
会 計／梨 本 次 郎
直 前 会 長／西 山 徳 芳
会長ノミニ／柳 取 崇 之 (クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
https://www.sanjorotary.site

■本日の出席会員数:55名中31名
■先々週出席率:72.73%

【ゲスト】

・障がい者支援施設いからしの里
園長 五十嵐清美 様

【先週のメイクアップ】

[12.7] ウィンターフェスティバル
(須頃小学校)へ

・吉井直樹さん、五十嵐晋三さん、
・嘉瀬一洋さん、船越良則さん、
・松永一義さん

[12.7] 三条RACへ

・松永隆夫さん

[12.9] 南雲年度クラブ会長幹事研修
(長岡)へ

・杉山幸英さん、渡辺良一さん、
・船越良則さん、関川 博さん、
・早川滝徳さん、石黒良行さん

[12.11] 三条南RCへ

・杉山幸英さん、滝沢 亮さん



「ガーデンシクラメン」

会長挨拶

吉井直樹 会長



会長挨拶を申し上げます。

本日は三条ロータリーの大先輩で多大なる貢献をいただいた渡辺勝利さんの告別式に参加されている会員がいらっしゃるため、少なめの人数での例会となりますが、よろしく願いいたします。

このように急用で参加できなくなることもあると思いますが、その場合はぜひ

メイクアップをお願いいたします。

さて、昨今話題、大谷選手の移籍の話題で世間では持ちきりとなっています。皆様も耳にしたり話に出したりしていることと思います。大型契約で凄いなと思いつつ、それを日本人が成しえたということに感動しました。それ以上に思ったことはアメリカの凄さです。もちろん契約の金額も驚きですが、それを後払いにした事によるチームの補強金額に余裕ができ、更なるチーム強化が可能になって1強となる危惧をすぐさま指摘して、問題解決に向かおうとするところです。日本でのお祭り騒ぎをするだけではなく、今後起こりうる危機に対して、予測して、対応を取ろうとする早さに驚きました。



世界に希望を生み出そう

2023～2024 年度国際ロータリーのテーマ

昨今、永田町では何やらきな臭い話が出ているようですが、年末に向け少しでも明るい話題が多くなるとよいと思います。

そんな意味も含め、来週はクリスマス例会があります。皆さんも笑顔で楽しめるようにしたいと思いますので、ぜひ大勢の参加をお願いいたします。

幹事報告

船越良則 副幹事



◎次週 20日(水)は、夜例会「クリスマス例会」です。夜例会ご欠席の方は事務局で記帳または他クラブでメイクアップをお願いいたします。12月27日、1月3日はクラブ休会です。新年は1月10日(水)より通常例会となります。

ニコニコBOX

吉井直樹会長

クリスマス例会が近づきました。忘年会をかねて皆様と楽しく過ごしたいと思います。

本日五十嵐様、卓話ありがとうございます。

渡辺良一さん

また1人大きな人が逝ってしまいました。

渡辺勝利さんのご冥福をお祈り致します。

五十嵐清美園長、卓話よろしくお祈り致します。

西山徳芳さん

明日は赤穂義士祭です。今日大判焼を食べます。「餡」はタップリ。討ち入りの、値段は堀部安兵衛冬の風物詩です。

関川 博さん

渡辺会長エレクト、船越幹事エレクト、クラブ会長幹事研修おつかれ様でした。

地区研修委員会、初めてのトライでしたが高い評価を、各クラブからいただきました。

嘉瀬一洋さん

息子にタイヤ交換を教えようと、久しぶりにやりましたら、腰を痛めました。もう自分ではやりません(笑)五十嵐様、卓話よろしくお祈り致します。

梨本次郎さん

渡辺勝利さんのご冥福をお祈り致します。

松永一義さん

渡辺勝利さんのご冥福、お祈りします。

明田川賢一さん、長谷川正実さん、杉山幸英さん、高橋 司さん、金子俊郎さん、渡部 宏さん、成田秀雄さん、船越良則さん、安達俊明さん、小越憲泰さん、柳取崇之さん、野崎喜一郎さん、山田富義さん、高橋俊樹さん、松永隆夫さん、早川滝徳さん、 歸山 肇さん

いからしの里園長 五十嵐清美様を心より歓迎申し上げます。本日は卓話ありがとうございます。

12月13日分 ￥ 24,000
今年度累計 ￥ 669,000

令和5年度 三条市特別支援学級児童生徒

「ウインターフェスティバル」

12月7日(木)、須頃小学校に於いてウインターフェスティバルが開催されました。子どもたちが計画した遊びをサンタさん、トナカイさんと一緒に行い、楽しい時間を過ごしました。(出席者はメイクアップの欄に掲載しております)



「卓 話」

「障がい者支援施設いからしの里 これからの施設づくり」



障がい者支援施設いからしの里

園長 五十嵐清美 様

ごめんください。三条市の月岡にあります社会福祉法人県央福祉会「障がい者支援施設いからしの里」園長の五十嵐清美と申します。

皆様には、日ごろ、いからしの里をはじめ、県央福祉会の各施設が大変多くの面で温かいご支援・ご協力をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。

皆様のお手元に、県央福祉会のパンフレットといからしの里のパンフレットをお配りいたしました。県央福祉会は三条市内に、障がい者施設、事業所、高齢、保育所の福祉3分野を運営しております。法人の理念は「利用者主体の質の高い福祉サービスを通じて、地域社会に貢献します」です。

昭和54年の法人設立、その翌年、はじめの一步が「いからしの里」の開設でした。この地域の福祉事業のパイオニアとして自負しております。

ここ数年のコロナ禍において、我々、福祉施設にとって大きな転換期が来ていることも事実です。隔離、閉鎖された時代に逆戻りしてしまう危機感を抱いた三年間でした。

今、感染症分類が5類になっても、なかなかコロナ前の体制にはすぐには戻れないのも、福祉施設です。特に、高齢者の命を預かるということの重さと世間一般のコロナへの意識との格差がひろがって来ます。そんな中でも、これ以上、後戻りしないように少しずつ前に進むために各施設が工夫を重ねている状況といえます。

さて、ロータリークラブ様にはいからしの里が開設して間もないころからご支援いただいております。特に、毎年、クリスマスのサンタクロースさんとして施設においでいただいてプレゼントを配っていただいております。利用者の皆さんにとって一年に一度の大イベントで、笑顔あふれる時間をいただいております。しかしながらここ3年は新型コロナウイルスの蔓延からおいでいただくことをお断りし、プレゼントを通しての交流に制限され、本当に残念に思っております。

今年はきたる19日(火)にいからしの里に久しぶりにおいでいただくこととなっています。利用者の皆さんは本当に楽しみにしています。どうかよろしく願いいたします。

本日はいからしの里がコロナ禍を経て、今、目指す施設づくりのことなどをお話しさせていただこうかと思っております。

まずいからしの里概要について簡単にお話しします。

- ・いからしの里は昭和55年の開設以来43年の歳月がたちました。
- ・三条市、見附市、加茂氏、燕市、栃尾市、栄町、下田村、中之島村、田上町の9市町村を構成市町村としてスタート
- ・スタート時は 入所のみ 男性25名 女性25名の50人定員

初代の酒井誠治園長がいからしの里に「共に生きる」「共に育つ」という思いのもと、利用者、家族、職員が一体となっていからしの里を育ててきました。

現在、いからしの里は法制度の変遷により障がい者支援施設という名称になっています。入所の方だけではなく、送迎バスなどをご利用になって通所される方もおります。

入所者の平均年齢が60歳くらいになり、最高齢は男性76歳、女性が82歳。車いすや歩行器使用の方も増えてきています。

かといって、若い方は20代の方もおり、活動の仕方や興味を持つ事柄も幅が広く、集団で何かするというより、個別に対応することが増えています。

43年間ずっと生活されている方もいます。30代であった方は70代になっているということになり、できることができなくなることも多くなり、介護されることも増えているのが現状です。

日課は一応決まっていますが、お部屋でテレビやラジオなどを遅くまで楽しまれている方もいます。ご本人が希望される生活をと、できる限り個別の対応をさせていただいております。

現在のいからしの里の基本方針です。

「あなたのえがお わたしのえがお 楽しむ、喜ぶ、ホッとすゝ いからしの里」

この言葉には以下の思いが込められています。

- 1 初代園長が目指した徳心を、利用者にもわかりやすくする。
- 2 入所施設という限られた空間の中にあっても、利用者が生活に喜びや楽しさを感じ、夢を持ちながら毎日を送ることができるように支援する。利用者の皆さんはいろいろな夢を語ってくれています。その夢をかなえることができる方法を職員と一緒に考えるようにしています。
- 3 一人一人が自分らしく、張り合いと活力を持って生活できるように支援する。

4 心身ともに充実・安定した生活や活動ができるように、地域や家庭、関係機関と連携する。

この4つのどれもが大切です。

職員朝礼で毎朝唱和しています。なにより、この言葉で職員自身が笑顔で一日をスタートすることを大切にしています。

家族会の活動で1年に1回、施設内清掃を行ってきました。コロナ禍になって、2年ほどなくなりましたが、昨年からは外作業を中心においでいただき交流は再開しています。「密」を避けるということで、1日でなく参加できる日にちの候補をいくつか挙げていくことで、むしろ、コロナ前より参加されるご家族が増えており、従来の同日集団活動にとられないという職員の工夫によって効果が表れたと思っています。

地域の方との交流の場面をいくつかご紹介いたしましたが、コロナ禍においては、直接的、定期的な交流は少なくなっはいますが、ビデオなどでの交流など繋がりが絶えないように工夫していくようにしています。

コロナ禍の中で・・・施設が直面した問題と今後の課題をまとめます。

緊急事態宣言 ～外出、外泊、ボランティアとの交流～ すべて禁止

となったことが続いたことは施設にとって大きなマイナスになっていました。なぜそこまでしたのか？

- ・集団生活で感染が拡大
- ・基礎疾患を抱える方が多い～重篤化が懸念
- ・障害特性から入院ができない、受け入れ先がないということからです。

実は今年の1月2日に一人の発熱者が出て、それからあっという間に感染が拡大。職員を含めると40人を超えるクラスターが発生しました。高齢化したご利用者も多いため、職員の緊張感と恐怖感に近い不安はとても大きかったのです。悪化しても入院できないだろう利用者をなんとかいからしの里の中で回復させたいとの強い思いで約1か月の戦いといっても過言ではない日々でした。幸い、重症化する

方を出さず終結できましたが、やはり感染拡大のスピードに驚き、外部との交流に臆病になってしまいがちでした。

でも、これがあったからこそ再確認した思いもあります。

彼らの生活の場はいからしの里。生活に潤いをもたらせなければ！という職員の強い気持ちが必要なのだということを再確認できたのです。感染を恐れてばかりではなく、彼らの生活の質を守る、増進するためには、職員の創意と工夫が試されている時代がきたということだと思っています。

- ・この地域の中に「いからしの里」があること
- ・そこで障害のある方が生活していること
- ・苦手なことが多くても笑顔が素敵な彼らがいること
- ・周りの方との交流を求めていること

これらのことを我々職員は利用者の代弁者となって、コロナ前以上に広げていくことが使命と思います。

最後に

昭和58年の12月の三條新聞の記事から～

ここに三条ロータリークラブさんのサンタクロースのことが載っておりましてご紹介いたします。

この記事の年、昭和58年に私はいからしの里に職員として赴任した年です。その後異動で離れ、三年前にいからしの里に園長として戻ってきました。私にとってもロータリークラブ様は、毎年ワクワクとドキドキと笑顔を運んでくださるサンタさんです。今年、ようやくお会いして交流ができることを利用者さん以上に楽しみにしております。

改めまして感謝申し上げますとともに、コロナ禍を経た今こそ、三条ロータリークラブさんをはじめ、地域の皆様のお力をお借りして、これからも伝統あるいからしの里を、43年の伝統に甘えず、「利用者の張り合い、楽しさ、喜び、人とのかかわりを豊かに、満足感にあふれる施設にする」歩みを止めずにと考えております。

今後とも皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。お話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

次週例会 12月27日 クラブ休会

次々週例会 1月3日 休会（祝日の週）

